

Ⅲ 遺 物

1 土器・土製品 (fig. 9 - 1 ~ 11)

土器・土製品の大半は井戸 SE6010、土坑 SK6015から出土しており、出土量は少ない。

SE6010出土土器・土製品 井戸枠内の最上層から緑釉陶器 1 点、須恵器高杯 1 点、底近くから須恵器小壺 2 点、土師器杯 A・皿 A 各 1 点、井戸掘形から土馬 1 点が出土。緑釉陶器 (1) は耳皿と推定される小片で、底部内面と体部外面に淡緑色の釉がわずかに残る。胎土は軟質で、黄白色を呈する。平高台で底に糸切痕が残る。須恵器高杯 (4) は脚上半部の破片。脚部外面と体部の底をロクロなです。焼成は良好で自然釉が降着する。愛知県猿投窯産であろう。1・4 の年代は 9 世紀前半～中頃。

須恵器小壺 (5・6) は底部に糸切痕が残る。口縁部から体部内外面はロクロなで。5 は口縁部を欠くが、肩が張る。焼成良好で淡青灰色。胴部最大径 6.7cm、底部径 4.4cm。6 はほぼ完形で最大径が胴部中央にある。やや軟質で暗灰色。口縁部径 3.7cm、胴部最大径 5.8cm、底部径 3.8cm、器高 9.1cm。5・6 は 9 世紀前半代の京都府篠古窯産であろう。

土師器杯 A (3) はほぼ完形で口縁部を幅狭くよこなでして外反させる。内面はよこなで調整するが外面はほとんど不調整で指頭圧痕が残る。口縁部径 15.0cm、器高 3.0cm。比較的硬質で暗黄褐色を呈する。土師器皿 A (2) は口縁部径 12.5cm、器高 1.3cm と小形の破片。口縁部をよこなでして外反させ、端部がわずかに肥厚する。外面はほとんど不調整。2・3 の年代は 9 世紀前半～中頃。

土馬 (11) は頭部・尾部と脚 2 本を欠く。全体を指でなでて仕上げる。やや軟質で淡橙色を呈する。比較的大型で、体部を折曲げて成形することから奈良時代後半に比定できる。

SK6015出土土器・土製品 須恵器杯 B と蓋各 1 点、土師器杯 B と壺 B 各 1 点及び土馬 1 点が出土。須恵器杯 B (10) は高台の残る破片。全体をロクロなで仕上げする。体部は直立気味。焼成は良好で淡青灰色を呈する。口縁部復元径 19.0cm、高台部径 14.2cm、復元器高 5.2cm。蓋 (9) は平板なつくりで、内外面をロクロなで仕上げする。やや軟質で淡灰色を呈する。口縁部径 19.6cm、器高 1.8cm。9 と 10 は奈良時代末頃に比定できる。

土師器杯 B (7) は完形。体部は内湾気味に立上り、口縁部でわずかに外反する。底部の仕上げはやや雑で処々に押圧痕が残るが、内面はよこなで調整し、体部外面はヘラケズリののち全面にヘラミガキを加える。奈良時代後半～末頃。土師器壺 B (8) もほぼ完形。口縁部が外反するやや浅目の壺で、底は平底気味。肩付近に板状の把手を 1 対つける。口縁部のみはよこなで仕上げするが、底部・体部は一部なでを加える程度で凹凸が著しい。本来は墨書人面用だが人面は描いていない。胎土に砂を含み、軟質で暗褐色を呈する。

その他 古墳 SX5985 から円筒埴輪の小片が出土しているが、調整手法は残りがわるく、年代も不詳。また、古墳 SX5985・5990・5995 の周溝から土師器細片が出土しているが、これも年代は不詳。なお、表土からは縄文中期後半の土器細片が 1 点出土した。

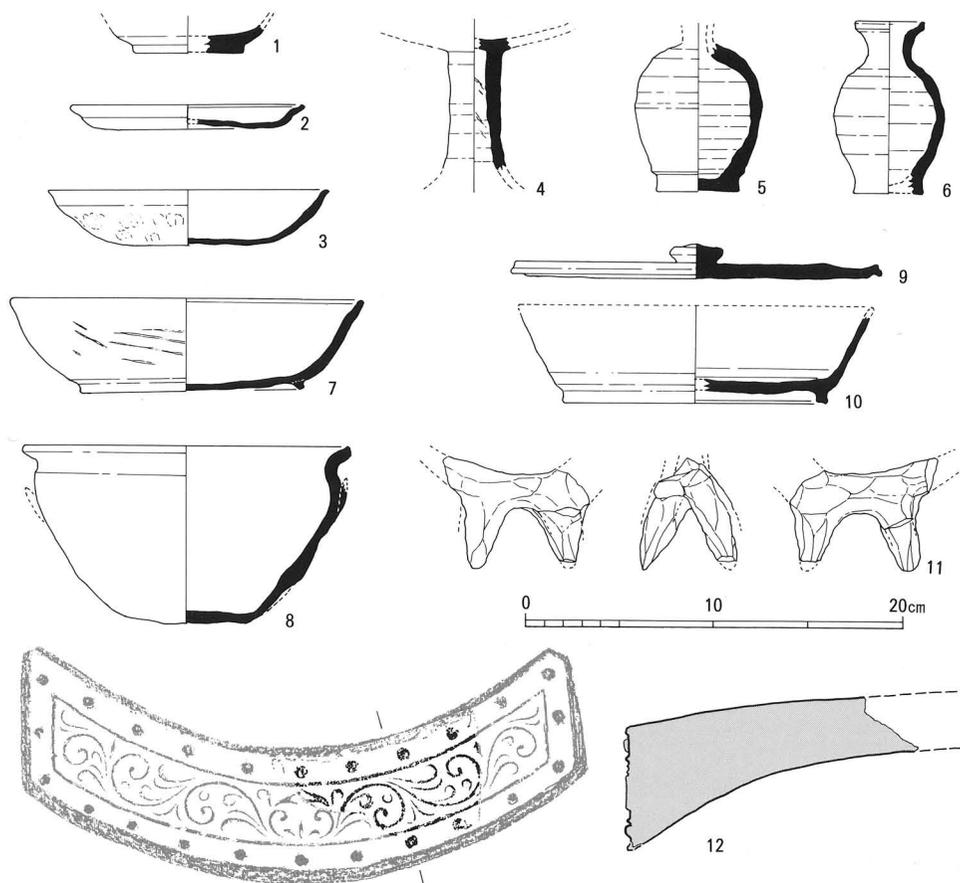


fig. 9 出土土器・土製品・軒平瓦 (1:4) SE6010 (1~6・11・12) SK6015 (7~10)

2 瓦類 (fig. 9-12)

瓦類は井戸 SE6010から軒平瓦 1 点・丸瓦 4 片・平瓦 17 片が、土坑 SK6015から丸瓦 1 片・平瓦 2 片が出土しているに過ぎない。塼は出土していない。

軒平瓦は6732型式 F 種である。焼成は良好で、灰色に焼き上がり表面のみ青灰色を呈する。凸面は瓦当部から縦に削り曲線顎 I に形づく。凹面は瓦当部付近を周縁に沿って横に削り、瓦当部を離れると斜めに削っており、布目は残っていない。軒平瓦6732型式は東大寺式と呼ばれ、F 種は其中でも古い一群で、平城宮・京の軒瓦編年第Ⅲ期後半からⅣ期にかけて、比較的長く使用され続けたものである。⁽¹⁾ 神護景雲元年 (767) に造営された頭塔の所用瓦としても使用されている。⁽²⁾ また新薬師寺・西大寺でも出土しており、これらの造営に造東大寺司が関わっていたことを示すとされる。今回の調査地点を考慮すれば、東側ほど近くに寺域が想定される新薬師寺との関連を考えるのが妥当かもしれない。

註

- (1) 毛利光俊彦「平城宮・京出土軒瓦編年の再検討」(『平城宮発掘調査報告』XⅢ、1991年)。
- (2) 異淳一郎「頭塔の調査」(『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』昭和63年度)、1989年。